

学びに向かう力を育むための「まとめ」を大切にした授業づくり ～「主体的・対話的で深い学び」の視点を大切に～（2年次）

十島村立口之島小・中学校

1 研究のねらい

本校は、これまで極小規模、小中併設校という実態を踏まえ研修に取り組んできた。昨年度は、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業の在り方をより具体化するために、「まとめ」の在り方に視点を置き教育実践にあたってきた。今年度は本研究の2年目であり、これまでの実践を生かしつつ、「まとめ」を軸にしながら、深い学びに導くための「めあて」と「振り返り」について研修を深めている。特に、「振り返り」は、児童生徒の学びを見取り、教師の指導を確かめるものとして、様々な実践に取り組み、教師の指導力の向上を図りたいと考えた。

2 研究の概要

校種や教科を問わず、「めあて—まとめ—振り返り」を軸にして授業づくりをしている。その中で、めあての立て方やまとめの仕方の工夫、振り返りのさせ方や生かし方について研究を進めていった。

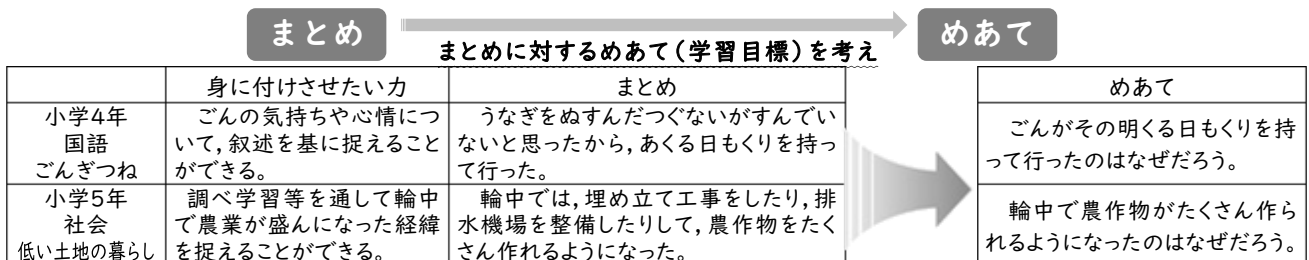
3 研究の内容

- (1) めあてとまとめの整合性について
- (2) 振り返りについて
- (3) 「めあて—まとめ—振り返り」を軸にした授業づくりについて

4 研究の実際

(1) めあてとまとめの整合性について

児童生徒が学習した内容を端的に表したものがまとめである。本研究では教師が身に付けさせたい力を明確にし、そこからまとめを、そして、そのまとめに対してめあてを考えるようにした。



本研究を行うにあたり、めあてを右の4つに整理した。学習過程や学習内容、教科の特性によって使い分けを行う中で、解決型のめあてが最もまとめに結びつきやすいことが明らかになった。身に付けさせたい力を明確にし、まとめからめあてを考えることで、めあてを達成するための学習内容や学習方法も整理され、めあてとまとめに整合性があり、めあてに沿った一貫性のある授業づくりができるようになった。また、めあてに沿った学習が行われるようになったことから、児童生徒が自分で考えたり対話したりしながらまとめをすることが多くなり、学習したことを自らの力でまとめる力が高まった。

| | |
|-------|---------------------------|
| 活動型 | 例:～しよう～書こう～解こう～考えようなど |
| 可能型 | 例:できるようになろう 理解しよう 覚えようなど |
| 情意型 | 例:楽しもう 味わおうなど |
| 問題解決型 | 例:なぜ～だろう～するにはどうすればいいだろうなど |

(2) 振り返りについて

振り返りは本時(単元)の学習に対する児童の自己評価である。1年目の研究で、振り返りが児童生徒の「達成感」「自己変容」「追求心」を高め、それが「深い学び」へつながっていくことを明らかにした。2年目は、振り返りの目的を明確にし、児童生徒の振り返りの力を更に高めるための手立てについて実践を重ねていった。

教学振り返りシート ()年 氏名 ()

| 第 () 章 | 単元名 () | よくできた◎、できた○、もう少し△ | 評価 | <わかったこと・不思議に思ったこと> |
|---------|---------|-------------------|----|--------------------|
| 観点・意欲 | 1 | 自分から進んで取り組めた | | |
| 見方や考え方 | 2 | 前時までの内容を生かそうとした | | |
| 技能 | 3 | 自分の考えを他者に説明しようとした | | |
| 知識・理解 | 4 | 課題を解くことができた | | |
| | 5 | 課題の内容が理解できた | | |

振り返りカード (シート)

- ・全単元で共通で使えるもの
- ・単元ごとに内容を変えるもの
- ・自己評価/他者評価
- ・記号(◎○△)/数値

深い学び

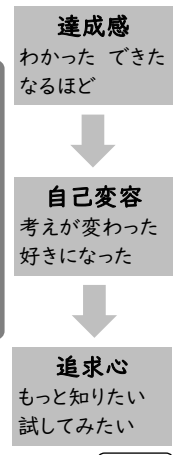
○ 振り返りをする目的は…

児童生徒: 学習をじっくりと振り返ることができる。自己の変容を見取ることができる。

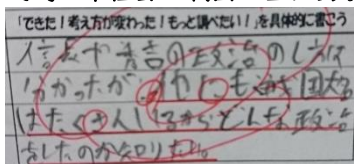
→ **自己評価をする力の向上**

教師: 児童生徒が目標を達成できたかを見取ることができる。

→ **評価のための判断材料(思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度)**



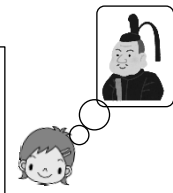
小学6年社会「戦国の世から天下統一へ」の振り返りカードよ



信長や秀吉の政治の仕方は分かったが、他にも戦国大名はたくさんいるから、どんな政治をしたのか知りたい。

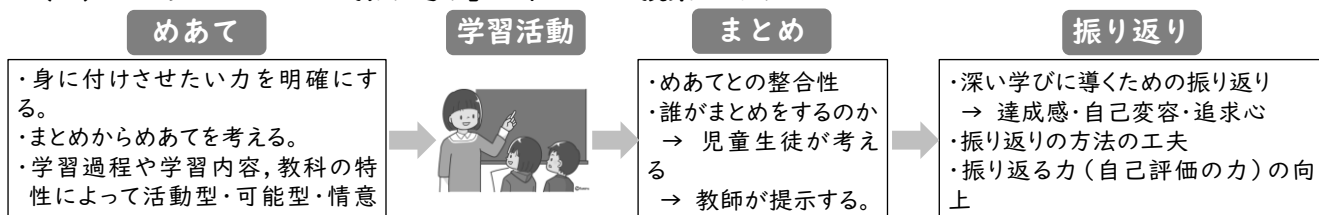
→ 信長や秀吉の政治の仕方は分かった(達成感)

→ 他の戦国大名がどんな政治をしたのか知りたい。(追求心)



実践の初期の段階では、振り返りの記述をどのように書けばよいか児童生徒が戸惑う場合もあったが、実践を重ねていく中で内容が具体的になり、教師も振り返りに基づいて評価をしたり、自らの指導の改善や工夫に努めたりするようになった。

(3) 「めあて—まとめ—振り返り」を軸にした授業づくりについて



上記のように、めあて—まとめ—振り返りを軸に授業づくりを行っている。特に、振り返りが充実するようになってからは、教師が前時の振り返りを参考にし、児童生徒に「達成感、自己変容、追求心」を持たせるような授業づくりに取り組むようになった。このようなサイクルに教師と児童生徒が意識しながら取り組むことで、日々の学習が主体的・対話的になり、深い学びのある学習が展開されるようになった。

5 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ 児童生徒がめあてを意識して学習に取り組むようになり、学習内容をまとめる力が高まった。
- ・ 児童生徒の振り返る力が高まり、理解したことや達成できたこと、次に学習してみたいことなどを具体的に分かりやすく表現することができるようになった。
- ・ 教師の意識が高まり、達成感、自己変容、追求心を持たせる授業づくりをするようになった。
- ・ 「めあて—まとめ—振り返り」のサイクルを教師と児童生徒が互いに意識し、それが習慣化されることで、日々の学習が主体的・対話的になり、深い学びに結びついた。

(2) 課題

- ・ 振り返りに時間がかかってしまうことがあるので、数値(記号)と記述の使い分けや振り返りシート(カード)の改善など、振り返りの方法を更に工夫していく必要がある。

6 今後の取組

研究の成果を、今後各種学力検査等を活用して数値的に検証していきたい。